

「平和と共生」についての論文を書く No.1

共生と平和についてログブックで扱った内容に関すること、または、広い意味で平和・共生に関することについて、高等部での学びの集大成として論文にまとめます。感想文やエッセイなどのような自由な文章表現ではなく、すじ道立った構成と、公に通用する形式を踏まえた「論理的な文章」の作成が目標です。

論文とレポートの違い

レポートは、授業や教科書の内容に即して先生がテーマや課題を決め、それに対して答える文章である。その目的は、内容を十分に理解しているかどうかを示すことである。

論文は、自分でテーマや課題を決め、それに対して自分で問題を作って自分で答える文章である。その目的は、自分の主張や意見を、調べた事実をもとに、読み手が納得出来るように論理的に説明することである。

論文作成の手順、方法

論文作成のための6つのステップ

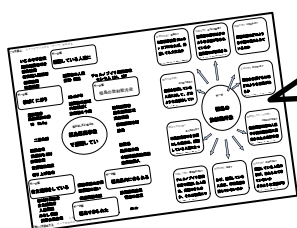
1. **テーマを決める**…何について論じるか、テーマを決める。
2. **知識を確認する**…テーマを取り巻く「全体像」把握し、テーマを絞り込む。
3. **資料を見つける**…どんな資料があるか知り、適切な資料を考え、探し方を学ぶ。
4. **情報を集める**…見つけた資料から情報を入手し、読み解く。
5. **まとめる**…アウトラインを決め、論文にまとめる。
6. **ふりかえる**…皆に感想、意見を聞く。振り返る。

1. テーマを決める

適切なテーマを選ぶことは非常に重要である。「よいテーマ」を選ぶことが出来れば、論文は半分以上書けた事と同じである。

では、どのようにテーマを決めたらよいだろうか。まずは自分の興味・関心のある事柄を想定し、その中から共生と平和に関連する話題を選ぶと良い。

ただし、調べればすぐにわかること、調べる手がかりが見えないこと、調べてもすぐには答えが出せないことは論文には書けないので、そこを見極める必要がある。論文は、**話題にした事柄に対して、すじ道を立てて論理的に説明し、読み手を納得させなければならない**からだ。



イメージマップを
作成して、
テーマを決める

テーマを選び、テーマに沿って「問い」を設定し、その「問い」に対する「答え」を考えるために、「つつこみ」をいれる作業を行います。

夏休み

テーマを選ぶ

- ① 興味・関心をもっていること、疑問に思っていること、主張したいことなどを振り返る。
- ② 何も思いつかない人は、もう一度ログブックを読み返す。

例) 福島原発事故で避難している人たちの事が気になっている

ダメなテーマ： 大きすぎる 「愛とは何か」、「共生とは何か」
専門的すぎる 「エイズは完治できるのか」、「放射性物質は無害化できるか」
予想 「阪神は優勝するか」、「原発事故はいつ起きるか」
how to もの 「クッキーを作るには」、「廃炉はどのように行うか」
調べればすぐにわかる 「夏はなぜ暑いのか」、「除染とは何か」

「問い」を設定する

- ① 選んだテーマに対して、何が問題なのか、なぜ問題なのかを明確にする。
- ② 問題点をはっきりさせるため疑問文の形にする(問いに対する「答え」を先に考えてから、「問い」を設定しても良い)。

例) 福島の被災者を支援するには、何をしたらよいのか
避難指示が解除され被災者が帰還出来れば、福島は復興するのか

問いに対する「答え」を考える

- ① 問いに対して、言いたいことを文章にする。言いたいことがはっきりしない場合は 自分が知りたいことは何なのかを考える。
- ② 何も思いつかない人は、ステップ2「知識を確認する」の作業をまず行う。

例) 福島の被災者を支援するには、〇〇〇をしなければならない
福島が復興するには、〇〇〇が必要である

2. 知識を確認する

テーマが決まったら、テーマとなる事項の**概要をしっかりと押さえ**、知識の基礎をつくる。
調査対象の総体を掴んでいなければ、テーマを絞っていくうちに現れてくる個々の問題点の位置づけができない。おおまかな事がわかったら仮アウトラインをつくる。自分の主張を相手にわかってもらうためには、どんな内容をどんな順序で述べればよいのか**「あらすじ」を考える**。目次を作るとしても良い。

おおまかな事を知る

- ① テーマを取り巻く全体像を把握する。
- ② 基本概念を理解する。
- ③ 関連する専門用語を調べる。

例) 福島の人々と首都圏に住む私達との関係を知る
避難指示区域の状況を知り、政府の帰還政策を理解する
放射性物質、線量当量、除染、などの専門用語について調べる

あらすじを考える(仮アウトラインを作る)

- ① 自分の主張を簡単な文章にしてみる(ステップ1で文章化したものを再確認する)。
- ② 自分の主張を読み手に納得させるための説得材料を考える。
- ③ 読み手を納得させるためのストーリーを考える。

3. 資料を見つける

どんな資料が有効か考えながらさまざまな資料にあたる。読み手を納得させるためには、論拠が明確であるかどうかが重要である。そのためには、資料の種類と特性をきちんと把握する必要がある。また、論文作成に当たりどのような資料を使ったかという参考文献リストを見れば、書き手がその分野についてどれくらい勉強したかすぐにわかる。**手近で適当な資料だけ調べるのでは全く価値がない**。学習参考書や教科書などですますのは論外である。適切な資料を利用するのは、論文作成のマナーである。

さまざまな資料を知る

- ① 学術的体系を知るには**図書**を使う。
- ② 個別の研究内容を知るには**学術雑誌の論文**、**一般の雑誌記事**を使う。
- ③ 最近の動向を知るには**新聞記事**を使う。
- ④ ファイル資料、実物・模型・標本、視聴覚資料、パンフレット、講演、インタビューも利用できる。

資料を見つける 資料を見つけるには、主に次の方法がある。

- ① インターネットの**データベース**から見つける。
キーワードを入力して検索する。ひとつのキーワードでは十分な数の資料が得られないので、関連語や、最初に使ったキーワードの上位概念(広い意味の言葉)を表す語で検索する。

資料を探すデータベース… 高等部図書館 Web Opac、**新書マップ**、CiNii Books、
国立国会図書館サーチ、など

資料が読めるデータベース… 高等部図書館契約有料データベース(事典、新聞記事)、
首相官邸→白書、CiNii Articles(サイニー)、など

- ② 関連した一冊の本を手にとり、その「**参考文献**」から見つける。
- ③ 「**本を探す本**」(書誌)から見つける。

4. 情報を集める

見つけた情報が**論文の素材として信頼できるか確認**し、また、その情報が必要か有効かを考えながら読む。文章だけでなく様々な形態の図やグラフも読み取る。また、目的に応じた記録の仕方を工夫する。また、論文を書く場合、自分の考えと他人の考えをと区別しなければならない。それは自分の主張がオリジナルかどうかを明確にするためである。他人の考えであることを明確にするには、「**引用**」を使う。

情報を読解する 読解のポイントは次の通りである

- ① 主体的・批判的に読む。
- ② 著者の立場や時代を考慮して読む。
- ③ 広く異なる立場の人の資料を読む。

情報を抽出する

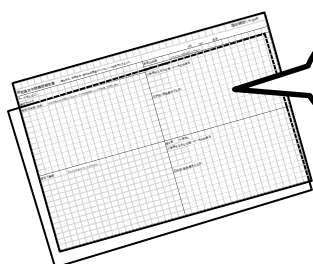
- ① ノートやカードに記録するのが基本。必要に応じてコピーをとる。
- ② インターネット情報はプリンターで出力、あるいはダウンロードする。
- ③ インタビューや講演は録音する。
- ④ 実地見聞や観察をしたら、写真撮影・録画をする。

引用する 引用とは他人の意見や主張を借りる事で、目的とメリットは次の通りである。**引用にはルール**がある。

- ① オリジナリティを高める。
- ② 自分の主張の根拠にする。
- ③ 自分の主張の応援団にする。
- ④ 自分の主張の架空の敵にする。

5. まとめる

集めた情報の整理・分析を行う。集めた情報それ自体には何もつながりがないので、それらの関係を考えて分類し整理する。そして、全体の論理的な構成を考え、集めた情報をまとめる。文章を書くだけでなく、データや出来事を時間順に並べて表や図も作り、読み手の理解を助ける工夫をする。論文には基本的な構成の仕方があるので、それに沿って**最終アウトライン**をつくる。



論文の構成を踏まえ、論文のアウトラインを作成する

論文を書く前に十分な下準備を行います。そのためにアウトラインを作成します。アウトラインとは、論文の構造を示したものです。

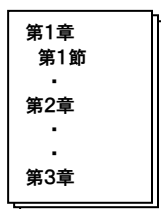
冬休み

集めた情報を整理する

- ① 仲間に分ける…内容によって分けて整理する。
- ② 比較して分ける…似ている点と異なる点を明らかにして整理する。
- ③ 原因と結果に分ける…原因となるもの、その結果となるものに分けて整理する。
- ④ 手順や時間順に分ける…どのような順番になるか分けて整理する。

一般的な論文の「型」を知る

- ① **タイトル・執筆者** タイトルは、問いや最も主張したいことを簡潔に表現できるように工夫する。
- ② **アブストラクト** 文の内容を1段落くらいで手短かに要約・紹介する。これを読めば論文のおおよその内容が読み手にわかるように書く。
- ③ **目次**
- ④ **序論(はじめに)** 動機や理由・意義、書いたことの全体像について説明する。
- ⑤ **本論** 自分が主張したいこと、分かって欲しいことを書く。章や節に区切って適切な見出しをつけ、どうしたら主張が伝わるか、論理的な構造を考える。



<論証の仕方>

- ・自分の仮説がそれを解決できるものであることを示す。
- ・先行研究の主張や、想定される反対意見の問題点を指摘する。
- ・裏付けとなる事実を挙げ、論理を展開して自分の仮説を証明する。

- ⑥ **結論(おわりに)** 自分が主張したいことを簡潔にまとめる。今後の課題や更に調べたいことも書く。
- ⑦ **参考文献リスト** 図書、雑誌記事、新聞記事、Web サイトなどそれぞれの書き方がある。

6. ふりかえる

書いた論文について読み手から意見・感想を聞く。内容が十分相手に伝わったかが最大のポイントとなる。評価項目を作成し自分でも評価をしてみる。また、論文作成にあたり、そのプロセスが適切だったか振り返ることも大事である。テーマの設定は適切か、適切な資料を利用したか、など次に生かせるようにふりかえる。

論文を書くときに参考になる資料

野末俊比古(2007)『情報の達人 第3巻 レポート・論文を書こう!』紀伊國屋書店[AV 資料(DVD)]
河野哲也(2014)『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶応義塾大学出版会
桑田てるみ編(2015)『学生のレポート・論文作成トレーニング 改訂版』実教出版
佐渡島沙織ほか(2015)『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』大修館書店

テーマを選ぶ イメージマップから「テーマ」を広げる

テーマ案

テーマ案

テーマ案

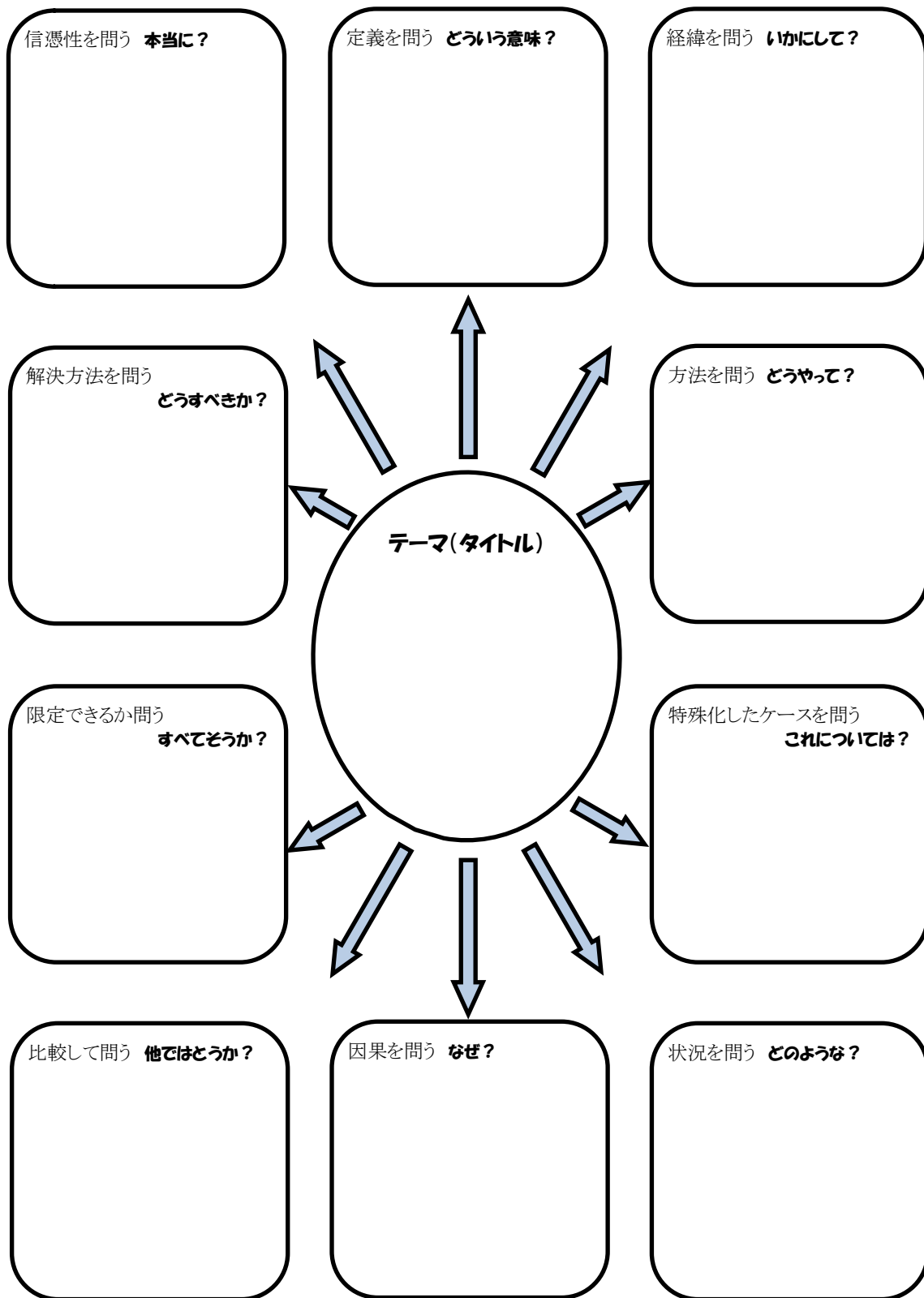
気になっていること

テーマ案

テーマ案

テーマ案

「問い」を設定する テーマを中心に「問い」を生み出す



気になっていることについて、思いっく限り
キーワードを洗い出そう。
そして、関連の深いもの同士
をこのマップにまとめて書いてみよう。
そこから、いろいろなテーマ
を見つけよう。

テーマ案
避難している人達に
対するいじめ

いじめで不登校
原発避難者叩き
婚約破棄
保育園入園拒否
結婚差別
駐車拒否

避難者の人権
差別・偏見

チェルノブイリ原発事故
セシウム 134、137

テーマ案
被ばくに伴う
心身の健康問題

風評被害
陸前高田の薪
10 Bq/kg

二重生活

仮設住宅
賠償打ち切り
出荷自粛
家賃補助制度
借り上げ住宅

20mSV/年
避難指示区域
内部被ばく
放射性ヨウ素

気になっていること
福島原発事故
で避難してい
る人達のこと

テーマ案
福島の放射能汚染
と帰還政策

強制避難者
居住制限区域
実効線量
帰還困難地域
除染

仮置場
最終処分場
中間貯蔵施設建設
廃棄物搬入

次ページ
に続く

テーマ案
自主避難をしている
人達のこれからの生活

自主避難者
入居期限
みなし仮設
災害公営住宅
区域外避難者

避難者間の分断
賠償額の違い

帰還困難地域

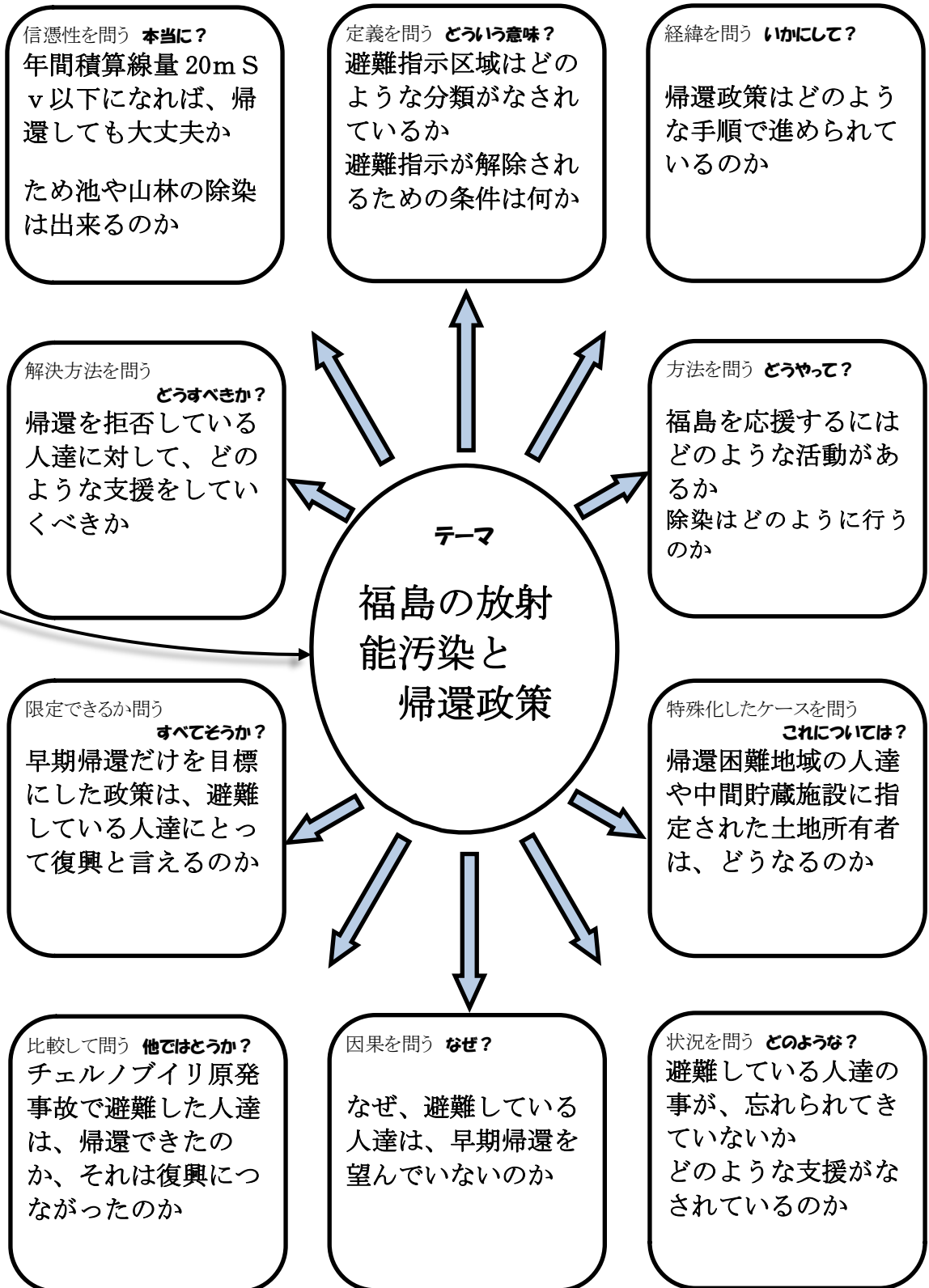
テーマ案
福島県内に作られる
中間貯蔵施設

原発関連産業
電気の恩恵

テーマ案
福島で作られた
東京の電力

「問い」を設定する テーマを中心に「問い」を生み出す

見本



平和共生論文アウトライン (書き方は、別紙見本、論文作成関連プリントNo.1～3を参考にすること)

HR	No.	氏名
1	1	山田 太郎
2	2	田中 次郎
3	3	佐藤 一郎
4	4	鈴木 三郎
5	5	高橋 五郎
6	6	中村 六郎
7	7	小川 七郎
8	8	小林 八郎
9	9	西村 九郎
10	10	山口 十郎
11	11	佐々木 十一郎
12	12	渡辺 十二郎
13	13	森田 十三郎
14	14	山本 十四郎
15	15	水野 十五郎
16	16	木村 十六郎
17	17	伊藤 十七郎
18	18	石川 十八郎
19	19	長谷川 十九郎
20	20	森田 二十郎
21	21	山本 二十一郎
22	22	水野 二十二郎
23	23	木村 二十三郎
24	24	伊藤 二十四郎
25	25	石川 二十五郎
26	26	長谷川 二十六郎
27	27	森田 二十七郎
28	28	山本 二十八郎
29	29	水野 二十九郎
30	30	木村 三十郎
31	31	伊藤 三十一郎
32	32	石川 三十二郎
33	33	長谷川 三十三郎
34	34	森田 三十四郎
35	35	山本 三十五郎
36	36	水野 三十六郎
37	37	木村 三十七郎
38	38	伊藤 三十八郎
39	39	石川 三十九郎
40	40	長谷川 四十郎
41	41	森田 四十一郎
42	42	山本 四十二郎
43	43	水野 四十三郎
44	44	木村 四十四郎
45	45	伊藤 四十五郎
46	46	石川 四十六郎
47	47	長谷川 四十七郎
48	48	森田 四十八郎
49	49	山本 四十九郎
50	50	水野 五十郎
51	51	木村 五十一郎
52	52	伊藤 五十二郎
53	53	石川 五十三郎
54	54	長谷川 五十四郎
55	55	森田 五十五郎
56	56	山本 五十六郎
57	57	水野 五十七郎
58	58	木村 五十八郎
59	59	伊藤 五十九郎
60	60	石川 六十郎
61	61	長谷川 六十一郎
62	62	森田 六十二郎
63	63	山本 六十三郎
64	64	水野 六十四郎
65	65	木村 六十五郎
66	66	伊藤 六十六郎
67	67	石川 六十七郎
68	68	長谷川 六十八郎
69	69	森田 六十九郎
70	70	山本 七十郎
71	71	水野 七十一郎
72	72	木村 七十二郎
73	73	伊藤 七十三郎
74	74	石川 七十四郎
75	75	長谷川 七十五郎
76	76	森田 七十六郎
77	77	山本 七十七郎
78	78	水野 七十八郎
79	79	木村 七十九郎
80	80	伊藤 八十郎
81	81	石川 八十一郎
82	82	長谷川 八十二郎
83	83	森田 八十三郎
84	84	山本 八十四郎
85	85	水野 八十五郎
86	86	木村 八十六郎
87	87	伊藤 八十七郎
88	88	石川 八十八郎
89	89	長谷川 八十九郎
90	90	森田 九十郎
91	91	山本 九十一郎
92	92	水野 九十二郎
93	93	木村 九十三郎
94	94	伊藤 九十四郎
95	95	石川 九十五郎
96	96	長谷川 九十六郎
97	97	森田 九十七郎
98	98	山本 九十八郎
99	99	水野 九十九郎
100	100	木村 一百郎

[illegible][illegible]

70 期 平和共生論文アウトライン作成について

共生校外学習委員会

平和共生論文の提出まで約4か月となりました。6000字+アブストラクト（要旨）より成る研究論文を執筆するには、そろそろ本格的に資料収集や構想に取り組む必要があります。春休みに様々な予定が入る可能性のある人は、年明けにも執筆を始めるとよいでしょう。

論文を執筆するためには事前の構想が重要です。研究の目的や手段を明確にしたうえで、実際に論文執筆にとりかかるために章立てを行います。

夏休みに作成した「テーマ案」と「イメージマッピング」をもとに、冬休みには論文執筆のイメージを「アウトライン（中間報告書）」として構想を立てます。

迷うことがあれば、オリエンテーション時の配布プリントを参照して下さい。

マッピングにおけるすべての項目をむりやり反映させる必要はありません。自分の問題意識や調べてきた中で生まれた仮説に応じた章立てをしましょう。

〈注意〉

- ・参考文献には必ず学術論文を1本以上利用する。（必須）
（CiNii やほかの論文の「参考文献」をもとに探す。サイト内で読めるものもあり。）
- ・学術論文以外にも複数の図書（冊子形態）の参考文献を使う。（必須）
- ・資料としてホームページの記述も使えるが、客観性や事実性、公平性に欠けたものも多いので多用することは勧めない。使用する場合は注意する。
- ・論文は自分の考えを述べるものなので、集めた資料の内容を整理してまとめただけにならないように、また他人の考えの受け売りにならないよう注意する。
- ・逆に自分の思い込みによる「独り言」になってしまっても「論文」とは言えない。考えを論ずるための出典資料を示す必要がある。
- ・「平和」、「人の共生」が大きなテーマなので、細かな内容を考えているうちに、いつの間にか論文の視点や流れがずれてしまわないように気をつける。
- ・結論は、自分の考えが深まったことがわかるものであるべき部分で、アウトラインの段階では難しいが、「こうなるのではないか」というイメージは持って書く。

このアウトラインは今後、論文執筆時の見取り図になるものです。質の高いものを作れば、それだけ実際の執筆がしやすくなります。執筆をスムーズにすすめられるよう、しっかり考えて準備してください。

【記入例】 イメージマップの記入例をもとにこのアウトラインを作っています。一緒に参考にしてください。

平和共生論文アウトライン （書き方は、別紙見本、論文作成関連プリントNo.1～3を参考にすること）

テーマまたは口

論文タイトル 福島放射能汚染と帰還政策

章立て構想 どのような章立てになる予定か

序章(はじめに)

本論 第1章 福島の現状

第2章

第3章

第4章

第5章

結論(設定した問いとそれに対する根拠のまとめ、そして結論として自分の主張したいことを整理して書く。また、この研究を通して学んだこと、今後の課題を書く。)

このテーマに着目したきっかけ

東日本大震災が起こった3月11日に、テレビのドキュメンタリー番組で福島原発と周辺地域の現状を扱っていた。

そこでは放射能汚染の実情とともに、避難区域の人々の生活と彼らへのインタビューが事細かに紹介していた。

この番組を見ながら、私は自分の感覚が時間と共に日常に戻ってしまい、避難民の方々と遠く隔たっていると感じ、

このままではいけない、もっとこのことについて考えたいと思うようになった。

以上が、平和共生論文でこのテーマを扱うことに決めたきっかけである。

このテーマを論じる意義

福島第一原発事故で汚染した地域に暮らしていた人々の生活を対象として論じる。放射能汚染に対して、国や県はどのような

政策を行っているのか、被災した人々はどのような生活をしているのか、今後それらの人々にどのようなことがなされるべきか、

私たちは何ができるのかを論じる。東京オリンピック誘致の際、「アンダーコントロール」とされた汚染水の問題、除染汚染土の

中間貯蔵問題、廃炉問題など解消されない懸念事項が多い中、彼らの生活再建は切迫した課題であり、論ずる意義がある

と考える。

どのような結論に向かう予定か

メディアは、「復興」が進んだことを示す情報を多く発信し、福島県の地元でも「風評被害」を恐れ、放射線量の

低減や、県産食品の安全性を強調する情報の発信に偏りがちである。

このメディアの問題に切り込むとともに、原発事故3年後における避難者の状況について、「帰還、移住、第3の道を

生活レベルを戻すための法整備をすべきである」などの提言した先行論を踏まえ、事故から7年が過ぎ、避難解除が

広がった現状を客観的に捉え、今後の可能性を論じたい。

各章の内容	どのような内容を論じる予定か
第1章 小見出し 福島 の現状	
①参照する主な文献、データの出典元	原子力委員会(20018)『原子力白書(平成29年度版)』
	復興庁(2018)『福島復興に向けた取り組み』 2018年1月
	関西学院大学災害復興制度研究所他(2015)『原発避難白書』 人文書院
	☆ 藤川 賢(2018)「福島原発事故における避難指示解除後の課題—あぶくま地域の地域再生に向けて—」
②内容(簡条書きでも可)	『明治学院大学社会学部付属研究所研究年報』48,p165-177
第1節 放射能汚染の地域と汚染の現状	
	・避難指示区域はどのような基準で指定され、どのような基準で見直し解除されてきたか。
	・国は、2017年3月末までに帰還困難区域を除く全ての避難指示区域で面的除染が完了したとしている。
	通常の放射線管理区域に当たる線量より高い基準で避難解除とされ、帰還住民の健康へ影響が懸念される。
第2節 帰還政策と帰還状況	
	・除染の実施し、福島再生加速交付金でハコモノ建設やイベントも実施して「汚染はもう大丈夫」、「復興が進んでいる」
	などとしている。一方で避難区域解除により、生活回復の検証なしに加害者側が一方的に賠償を打ち切った。
	原発再稼働を進めるための「募引き工作」とも言われる。早期解除をしても特に子供は戻ってきていない。
第2章 小見出し なぜ帰還しないのか	
①参照する主な文献、データの出典元	山下祐介(2017)『「復興」が奪う地域の未来』 岩波書店
	山下薫子他(2015)『原発避難者の声を聞く 復興政策の何が問題なのか』 岩波書店
	吉原直樹他編(2017)『東日本大震災とく復興』の生活記録』 六花出版
	☆ 山中茂樹(2018)「福島県内外の原発避難者アンケートからみた復興加速策の問題点を考える」『災害復興研究』9,p81-103
②内容(簡条書きでも可)	
第1節 「福島」の中での違い	
	3種の避難区域の指定に伴い、強制的に避難させられた人と、自主的に避難した人との違いが生じた。十分な補償とは言えない中
	でも賠償の有無、無償住宅の一時的な提供、家賃補助などが立場によって異なる。避難先では「被災者はお金をもらって羨ましい」
	と言われ、差別や妬みの対象となり、さらに地域の違いで協力し合うべき人々が分断されている。
第2節 個別の事情による違い	
	個々の事情は、高齢世帯、子供の被曝に不安な家庭、帰還者が一定数いないと商売が成り立たない人など、千差万別である。
	放射線量などが一方的に設定した基準を下回った、という一方的な「リスクコミュニケーション」では、収束していない原発の近くに
	安心して帰還できないと考える人も多い。他の地での生活を根付かせるか、帰還するかはそれぞれ苦渋の選択を迫られている。

通番⑤ 「平和と共生」 についての論文を書く No.2

「資料を見つける」ためにインターネットを有効に利用する方法を説明します。

検索エンジンを使いこなす

Google や Yahoo!JAPAN のように、ネット上にある膨大なコンテンツ・サービスを検索し表示するプログラムを「検索エンジン」という。目的の情報を探し出すには、「検索オプション」「(検索) + 条件指定」などのツールやテクニックを使うと便利である。

完全一致検索: 文字列に完全に一致した結果を得るには、検索語を二重引用符(“”)で囲んで検索する。

例) “原発避難者の帰還”

ドメイン内検索: Web サイトを管理している組織やグループのドメインを限定して検索する。

例) 原発避難者の帰還 site: go.jp

go.jp … 政府機関 ac.jp … 大学 ed.jp … 幼・小・中・高 or.jp … 財団法人

更新期間で検索: 更新期間を 1 か月以内、1 年以内などに限定して検索する。

データベースを使う

は Web サイト・データベース名

資料を探す 高等部図書館の資料 OPAC 高等部 HP 上で検索

他機関の資料 CiNii Books 全国の大学図書館が所蔵している本や雑誌の検索

国立国会図書館サーチ 日本で発行されたすべての本や雑誌の検索

新書 新書マップ 知りたいことに関連した新書を提示

資料を読む **白書** 首相官邸 各省庁が出している白書へのリンクを提示

例) 内閣府: 防災白書、障害者白書、高齢社会白書、自殺対策白書など
法務省: 人権教育・啓発白書 など
農林水産省: 食料・農業・農村白書 など
環境省: 環境・循環型社会・生物多様性白書

統計データ 総務省統計局 さまざまな統計データを提示

例) 世界の統計、統計でみる都道府県や市区町村のすがた など

「なるほど統計学園
高等部」で統計資料
の使い方もわかる

学術論文

CiNii Articles(サイニー) 論文や図書・雑誌などの学術情報を検索
「本文あり」と表示されている論文は、全文を読むことができる。

Google Scholar(グーグルスカラー)

J-STAGE(ジェイステージ)

今回の論文作成で
は 必ず使う

高等部図書館の契約有料データベース

事典

ジャパンナレッジ

フリタニカオンラインジャパン

新聞記事

朝日けんさくくん

スクールヨミダス

日経テレコン

「平和と共生」についての論文を書く No.3

「情報を集め」「まとめる」ために必要な**引用文と参考文献の書き方**を説明します。

引用文の書き方

論文を書く場合、自分の考えと他人の考えとを区別する必要がある。他者の主張を自分の主張のように書くのは盗用にあたる。著作権を侵害しないために、引用のルールを知ることが必要である。

出典を明示する

引用を引用してはいけない。つまり、ある「情報A」に載っていた「情報B」を引用する場合は、必ずオリジナルな「情報B」を探して、そこから引用する。Wikipediaの記事は、別にオリジナルな情報源がある。オリジナルな情報源を探して引用する。

例) 河野 (2014) は、～と述べている。 参考文献リストに詳しい書誌

情報を載せる

引用の範囲を明らかにする

引用したい部分をそのまま引用する場合は、「 」の中に入れる。「 」の中はオリジナルのまま(語順を変えない、ひらがなを漢字にしない、など)書く。

例) 河野 (2002) は、「〇〇とは、・・・である。」と述べている。

引用したい部分を要約して引用する場合は、「 」の中に入れない。

例) 河野 (2002) によれば、〇〇であるという。

参考文献の書き方

引用した本や記事だけでなく、論文作成にあたって参考にした資料すべてを参考文献という。参考文献は著者の五十音順のリストにする。図書、雑誌記事・論文、新聞記事、Webサイトなどで書き方が異なる。また、学問分野によっても書き方が異なる。参考例をあげる。

出版社、発行所のこと

図書

著者名(出版年)『書名』(シリーズ名) 出版者

本の奥付で書誌事項を確認する。出版年は最新の版が最初に印刷された年を書く。
版・・・本の内容が改訂された履歴、刷・・・印刷回数の履歴

雑誌記事・論文 新聞記事

著者名(出版年)「記事論文名」『雑誌名』巻号、掲載ページ

著者名「記事名」『新聞名』掲載年月日(朝刊夕刊)、面

例) 小宮山亮磨「(いちからわかる) 指定廃棄物処分場って?」『朝日新聞(朝日けんさくくん)』

2018-11-15(朝刊)、宮城全県・2地方

Webサイト

著者名(更新年)「ページタイトル」『Webサイト名』<URL>(参照日)

例) 国立環境研究所(2015)「災害廃棄物の現場から」『災害廃棄物情報プラットフォームホーム』

<<http://dwasteinfo.nies.go.jp/report/index.htm>>(参照日 2015-12-01)

オンラインデータベース

著者名「記事名」『データベース名』提供者<URL>(参照日)

例) 館野淳「放射性廃棄物」『日本大百科全書(ジャパナレッジ)』ネットアドバンス

<<http://www.jkn21.com/>>(参照日 2018/11/15)

例) 原尚志(2015)「福島県内外の高校生個人線量比較」『物理教育』63巻2号、p

87-91

<<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009970925>>(参照日 2018-11-15)

※参考 桑田てるみ(2015)『学生のレポート・論文作成トレーニング』実教出版、後藤芳文ほか著(2014)『学びの技』玉川大学出版部

論文は、このような基準で何度も推敲しよう

青山学院高等部ルーブリック				
大幅な手直しが必要		改善が必要	合格	
1		2	3	4
自らの考えを醸成して、他者に論理的に伝え、理解・共感を得る能力				
全体の構成	各章の区分がされておらず、導入と結論がつながっていない。	各章の区分はされているが、導入から結論につながっていない。	各章の区分がされており、導入から結論につながっている。	各章の区分が適切であり、導入から結論にスムーズにつながっている。
理論の展開	テーマ追及のための議論がなされていない。立てた仮説について立証がなされていない。	議論はされているが、論点がテーマからずれている。立てた仮説についての立証が不十分である。	議論がテーマに沿って行われている。立てた仮説のサポート、立証が論理的になされている。	全ての議論が、テーマの追及のために行われている。立てた仮説のサポート、立証が論理的になされている。
現状や通説をしっかりと踏まえて、自ら局面を開拓する問いを問う能力				
現状の把握	問題の背景などを捉えられておらず、現状把握が不十分である。	問題の背景は捉えられているが、現状の把握まで至っていない。	問題の背景を捉え、現状の把握をしている。	問題の背景をしっかりと捉え、スタート地点を明確にしている。
課題の設定	追及する課題が論文に通じていない。または課題がテーマから逸脱している。	課題を設定しているが、課題がテーマに対して適切ではない。	課題を設定しており、テーマに対して適切である。	追及するのにふさわしい「問い」が明確に提示されている。
信頼性の高い資料を当たり、問いに対する仮説を構築する能力				
仮説の構築	各「問い」の答えとなる仮説が立てられていない。	仮説はあるが、「問い」に対応していない。	「問い」に対応した仮説が立てられている。	「問い」の答えとなる仮説がしっかりと提示されている。
資料の活用	資料データ等の引用をしていない。	資料データを引用しているが、信頼性が低い。	信頼性の高いデータを引用を用いている	信頼性の高いデータを引用を必要に応じて適切に用いており、引用方法も適切である。
培った共生マインドを持って、自らの関心をテーマへと絞り込める能力				
テーマの独自性	何を明らかにするか、明確でない。または、設定したテーマの方向性にズレがある。	テーマを設定しているが、テーマの表現があまり適切でない。	テーマを設定しており、表現が適切である。	独自性のあるテーマにトライしており、何を明らかにするかが明確。
共生の理解	共生への理解ができていない。	共生への理解はあるが、それが論文に反映されていない。	共生という視点を有しており、論文に反映されている。	共生という視点を有することが、論文全体に自然と見て取れる。

平和共生論文「アウトライン」 相互評価について

生徒同士で「論文アウトライン」を互いに読み合う。

【手順例】

- ① 1班4名程度で班分けする。
- ② 実施時に一旦回収していた「アウトライン」を返却し、「相互評価シート」を配布する。
「相互評価シートは」自分の氏名を冒頭に記入し、この用紙に次々に班のメンバーからコメントを書いてもらう。
- ③ 参考文献として1つ以上挙げられているはずの学術論文に☆印がつけられているか確認し、忘れていればその場で記入。
- ④ グループ内で、各自が口頭で自分の論文構想について、どのような取っ掛けで、どこを目指すのかを簡単に紹介する。
- ⑤ アウトラインの用紙を交換して読みあう。
- ⑥ 各グループから一人、HR全体で発表する。

【相互評価観点】

- ① テーマや論点は「平和」、「人の共生」に合っているか。
- ② データや他者の論文の紹介だけでなく、自分の考えを書く部分があるか。
- ③ オリジナリティーを感じられるか。
- ④ 結論に向けて、流れやつながりのある章立てができているか。
- ⑤ 適切な参考文献を利用しているか。（安易なネットのサイトではないか。）また学術論文を一本以上、参考にしているか。

【読み合い後の担任作業】

- ① アウトライン」用紙と「相互評価シート」の回収（2枚綴じられていると楽）
- ② 内容チェック
 - ・学術論文を参考文献に挙げていない場合、追加させる。（一見してわからない場合、生徒にCiniiから引いたものか尋ねる、ネットで検索して確認する。）
 - ・参考文献が、一見して安易なネット情報だけの場合、再度、追加させる。
 - ・テーマまたは論文の流れが「平和」「共生」から、一見してずれている場合、書き直しさせる。
 - ・一見して、全く構想できていないものは個別に声を掛け、書き直しさせる。
 - ・コメントの記入は必須ではない。一見して気になるもの（上記の内容、その他について）の指導をお願いします。
- ③ 無理のない範囲で早めに返却してあげると、入試休み等を使って早めに関心を持てるようになる。

平和共生論文アウトライン 生徒相互評価シート

HR _____ No _____ 氏名 _____ のアウトライン(論文構想)について

読んだ人は、チェック項目①～⑤について、どこが良いのか、またどこを改善するといったのか具体的にコメントする。

- ① テーマや論点は「平和」、「人の共生」に合っているか。
(例：このテーマについて〇〇の視点から扱うことで共生のテーマとなっており興味深い／一見、テーマは共生に関わりそうだが、章立ての中身が「共生」の視点と言えるか微妙だ、など)
- ② データや他者の論文の紹介だけでなく、自分の考えを書く部分があるか。
(例：自分の考えを示す部分が見られない／自分の論点をはっきり示されている、など)
- ③ オリジナリティーを感じられるか。
(例：思わぬ論点で興味深い扱いなりそう／一般的なまとめで終わってしまいそう、など)
- ④ 結論に向けて、流れやつながりのある章立てができているか。
(例：2章と3章がちぐはぐな印象、など)
- ⑤ 適切な参考文献を利用しているか。(安易なネットのサイトではないか。) また学術論文を一本以上、参考に使っているか。
(例：学術論文ではなさそう／もっといい資料がありそう、など)

【アウトラインを読んだ人1 氏名 _____】

- ① テーマや論点は「平和」、「人の共生」に合っているか。
コメント：
- ② データや他者の論文の紹介だけでなく、自分の考えを書く部分があるか。
コメント：
- ③ オリジナリティーを感じられるか。
コメント：
- ④ 結論に向けて、流れやつながりのある章立てができているか。
コメント：
- ⑤ 適切な参考文献を利用しているか。(安易なネットのサイトではないか。) また学術論文を一本以上、参考に使っているか。
コメント：

【アウトラインを読んだ人2 氏名_____】

- ① テーマや論点は「平和」、「人の共生」に合っているか。
コメント：
- ② データや他者の論文の紹介だけでなく、自分の考えを書く部分があるか。
コメント：
- ③ オリジナリティーを感じられるか。
コメント：
- ④ 結論に向けて、流れやつながりのある章立てができているか。
コメント：
- ⑤ 適切な参考文献を利用しているか。(安易なネットのサイトではないか。) また学術論文を一本以上、参考になっているか。
コメント：

【アウトラインを読んだ人3 氏名_____】

- ① テーマや論点は「平和」、「人の共生」に合っているか。
コメント：
- ② データや他者の論文の紹介だけでなく、自分の考えを書く部分があるか。
コメント：
- ③ オリジナリティーを感じられるか。
コメント：
- ④ 結論に向けて、流れやつながりのある章立てができているか。
コメント：
- ⑤ 適切な参考文献を利用しているか。(安易なネットのサイトではないか。) また学術論文を一本以上、参考になっているか。
コメント：

「平和・共生に関する論文」の執筆について

論文のテーマ

「LogBook の内容で扱った内容に関すること、または広い意味で平和・共生に関連すること」

概要

1. 社会科学、人文科学などのジャンルは問わない。
2. **A4 サイズ**の用紙を使用し、アブストラクト（概要）400～800 字程度、本文 **6000 字以上**とする。（図や表を除く）
パソコンで作成し、最終ページに総文字数を記載すること。

【参考】

- ・ A4 サイズ標準で 10.5p の文字サイズで、1 ページ約 1200 字程度。
- ・ 一枚目は表紙とし、タイトル、2 年次 HR、番号、氏名、アブストラクト（概要）を記載。
左面の見本を参照すること。
- ・ 引用、参考文献の書き方については、**論文オリエンテーション資料**を参照すること。

3. **2 冊以上の図書、および学術論文**を参照していること。
学術論文の検索の方法は図書館オリエンテーション資料を参照すること。
4. 提出は **3 年 1 学期の始業式**とする。プリンターが自宅にない場合、下記の PC 実習室開放日を利用する、またはコンビニエンスストア等を利用して提出すること。また、コースパワーを利用した電子ファイルの提出もあるので、ファイルを保存しておくこと。
5. 論文のタイトルは**大学進学時の資料**などに記載される予定である。
また、優れた論文は論文集としてまとめられ、表彰される予定である。
6. 他者の論文からの盗用が認められた場合はペナルティを課す。

タイトル 中央揃え 28pt

文字の大きさは目安

(ある場合ーサブタイトルー22pt)

HR201 No.99 青山 太郎 18pt

ここにアブストラクト（概要）を書き、論文の内容を要約して紹介する。読み手がこれだけを読んで、論文の主題、その問題の重要性、研究の観点、得られた結果、考察などがわかるようにまとめる。アブストラクト（概要）を読むことで、読み手が本文を読むかどうか決めることも多いので重要性は高い。

まず自分の研究の背景を把握してもらう上で共通の理解や通説となっている事柄を簡潔に述べる。それに関連した問題（わかっていないこと、未解決なこと、これまでなかったが取り上げられるべき視点）があることを述べ、研究主題を示す。

扱うテーマに関わるどの部分にどのような観点で注目するのか。それは、先行研究ではどのように扱われているのか、あるいは十分に扱われていないのか、社会的にはどのように対策を行われてきたのか、あるいはされておらず問題が十分に改善されなかったり、残ったままだったり、他への影響が出ていたりしているのか等をもとに、その主題の重要性や研究の目的につながることを述べる。自分がどのようにその問題を見るのか、仮説が立てられればその理由と共に提示する。

論文の目的は、自分が情報を集めて読者に伝えることではない。主題を論ずることによって、何かを解決に導くことにつながるものだったり、新たなものの見方を提供したりといったことを考えることである。

本文で詳しく述べることになるが、自分で集めた様々な情報をもとに問題（扱うテーマ）に対する考察の要旨を述べる。独創的な部分（オリジナリティー）をアピールできるとよい。

最後に、目的と呼応する結論としてまとめ、その意味するところとその意義を述べる。

以上 678 文字 今回は 400～800 字でまとめる。

タイトル・題名

長すぎず短すぎず、内容をよく表し、他の人が読みたくなる魅力的なものにする。

アブストラクト・抄録・概要(400～800 字)

論文全体の内容を手短にまとめる。これだけを読んでも、論文の主題、その問題の重要性、研究の観点、得られた結果、考察などが分かるようにまとめる。

はじめに・序論・イントロダクション

序論は、本論への道しるべを記す。

- 何を対象に何を研究するのかという問題提起
- その問題を取り上げる意義
- その問題の背景・経緯と現状（根拠となる文献を明記する）
- 先行研究の紹介・整理（詳しくは本論に書く）
- テーマの中でもどのような点に着目・注目するか（とにかく絞る）
- 自分の仮説の表明や論の展開の概要も入れられるとよい

本論

論文は、調べたことのまとめではなく、自分で考えた考察を論ずるものである。オリジナルの考察が求められる。たくさんの資料に当たり、集めた情報をもとに先行研究を整理し、様々な意見を比較し、自分の考察（できれば仮説を立て検証する）を論じる。

- すでに誰かが整理したものや誰かが述べた主張は参考として援用する。
- 自分に都合の良い資料もそうでない資料も同様に参照する。

対立意見を考慮せずに主張を述べても説得力がない。

- 他人の意見と自分の意見を混同した書き方をしない。
- 参考文献として Wikipedia など出所の責任が明確でないものは原則使わない。

最後に結論として、テーマについて概観し、序論に呼応して、整合した結論を述べる。また今後の展望を書き添える。

表現について

- 話し言葉でなく、書き言葉で書く。

×「なので、……………した。」「それで、……………なのだ。」「でも、〜〜〜だ。」などは避ける。

- 敬体（です・ます）でなく、常体（だ・である）を使う。
- 余情をもたせた体言止めにしない。論文はポエムではない。
- ひらがなで書く言葉に注意する。

「とき」…時間上のある地点を明確に指している場合は漢字。そうでない場合はひらがな。

「ところ」…空間上のある地点を明確に指している場合は漢字。そうでない場合はひらがな。

（例）「…総合して考えたときに～」 「…そのような会議を提案してみたところ～」

「もの」…明確な枠組みをもった「物」以外はひらがな。

（例）「…議論をかさねて出てきた案と、そうでないものとを比べて～」

「こと」…ひらがなが望ましい。「…する事は素晴らしい事で～」のような書き方はしない。

「よう」…ひらがなが望ましい。「前述の件の様な～」のような書き方はしない。

「みる」…視覚を用いた動作以外はひらがな。「…して見ると～」のような書き方はしない。

「いう」…発言を伴わない場合はひらがな。「…と言う名前の～」のような書き方はしない。

- 誤字脱字に注意する。特に同音異義語など。

- 算用数字は半角にする。

- 主語と述語が対応しているかどうか確認する。

- 接続詞を適切に使えているかどうか確認する。

- むやみに外来語を使ってわかりにくくならないようにする。

- 複数の意味に解釈される表現にならないよう気をつける。

※論文ができれば、最後にもう一度、確認して□にチェックしよう。